

第108回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年12月5日（火） 16：00－17：30

2. 場所：中央合同庁舎4号館共用1214特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

・宇宙政策委員会

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、白坂委員、鈴木委員、松尾委員

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

風木事務局長、渡邊審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(3) オブザーバー

内閣府特命担当大臣（宇宙政策担当）：高市大臣

(4) 関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課：扇課長

文部科学省研究開発局：千原局長

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長

経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課 宇宙産業室：伊奈室長

国土交通省総合政策局技術政策課 技術開発推進室：村上室長

環境省地球環境局総務課 気候変動観測研究戦略室：石原室長補佐

防衛省防衛政策局戦略企画参事官 宇宙・海洋政策室：中野屋室長

4. 議事要旨

(1) 宇宙技術戦略に関する考え方について

宇宙技術戦略に関する考え方について、宇宙事務局より資料1-1、1-2、3に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見があった。

（以下、○委員からの意見）

○宇宙関係予算の配分の方向性を、宇宙技術戦略によって示すことが重要。どのように技術を育て、それをスピードアップしていくのか、また、オールドスペースとスタートアップをどのようにコラボレーションさせていくのか、という観点も含めてロードマップを検討してほしい。

○JAXAでは、これまでファンディングエージェンシーとしての業務をしてこなかったの
で、スムーズに宇宙戦略基金を運営・運用できるよう、体制整備が重要。

○宇宙戦略基金について、経済安全保障重要技術育成プログラムなど、そのほかの予算との整合性を取りつつ、有効に活用してほしい。

○技術開発の先に、アンカーテナンシーなど、商業化を見据えることができると、民間企業もより精力的に開発に取り組むことができるのではないかと。

(2) 宇宙基本計画工程表の改訂について、宇宙事務局より資料 2-1、2-2 に基づき説明を行った。委員から以下のような意見があった。

(以下、○委員からの意見)

○宇宙安全保障協力の枠組み「連合宇宙作戦イニシアチブ」(CSPO) に日本が参加することになったのは非常に良いことである。こうした活動に積極的に参加してほしい。

○準天頂衛星の 11 機体制構築は非常に重要。政府全体でバックアップしつつ、スピード感をもって進めてほしい。

○国土強靱化や地球規模課題への対応は、人類全体に関係する話。衛星の活用により、日本の国土強靱化のみならず、国際的な貢献まで視野に入れてほしい。

○ロケットの開発と併せて、打上げに必要なインフラの整備も進めてほしい。射場整備は、地域経済にも貢献が期待される。ここ数年停滞していた打上げが、ここから順調に進み始めることに期待。

○これまでの宇宙基本計画工程表は、技術開発に関する記載が中心だったが、今回は利用省庁の取組も多く記載されるようになって非常に良い。今後も、利用省庁の取組を積極的に盛り込んでほしい。

以上